

岡山市書写教育研究会要項

1 研究主題

言葉の力を生かしながら，共に学び合う子どもをめざして
～書く楽しさを味わい，自己の伸びを実感できる書写学習～

2 期 日 平成23年11月8日(火)

3 会 場 岡山市立伊島小学校

4 日 程

13:30 13:55

14:40 15:00 15:10

16:20 16:30

受 付	公開授業 (多目的教室)	移動 休憩	開会 行事	研究協議会 (図書館)	閉会 行事
--------	-----------------	----------	----------	----------------	----------

5 公開授業

学年・組	単 元 名 ～題材～	授 業 者	会 場
3年1組	「まがり」 ～つり～	瀬島 真紀	多目的教室

6 研究協議

(1) 開会あいさつ 岡山市習字教育研究会 会長 岡 本 宏 子 校長
岡山市立江西小学校 校長

(2) 研究協議会

1) 研究概要説明 岡山市立伊島小学校 野 上 律 子 教諭

2) 授業反省 岡山市立伊島小学校 瀬 島 真 紀 教諭

3) 協 議

(3) 指 導 講 評 岡山市立妹尾小学校 宮 本 毛 登 明 教諭

(4) 閉会あいさつ 岡山市立伊島小学校 平 野 和 司 校長

・協議司会 岡山市立西大寺小学校 平 木 雅 人 教諭

・協議記録 岡山市立横井小学校 杉 山 由 美 教諭

・運 営 岡山市立浮田小学校 吉 田 健 教諭

1 学校教育目標と指導の重点

未来を拓く心豊かな子どもを育成する

確かな学力の育成
心豊かな子どもの育成
健やかな身体の育成

2 研究主題

「言葉の力を生かしながら、共に学び合う子どもをめざして」
ー書く楽しさを味わい、自己の伸びを実感できる書写学習ー

3 研究主題について

本校では、学校教育目標に「未来を拓く心豊かな子どもを育成する」を掲げ、3つの指導の重点「確かな学力の育成」「心豊かな子どもの育成」「健やかな身体の育成」を柱に、教育実践に取り組んでいる。

これを受けて、研究テーマに「言葉の力を生かしながら、共に学び合う子どもをめざして」を掲げ、「自他を尊重する学級集団づくり」と「自分の思いや考えをしっかりともち、伝え合う中で学びを深めていく授業づくり」を表裏一体で進めていく研究・研修を重ねてきた。

本校では、この研究テーマをふまえながら「書く楽しさを味わい、自己の伸びを実感できる書写学習」をめざして、書写学習の研究に取り組むこととした。

書く楽しさを味わい、自己の伸びを実感できる書写学習をつくるためには、自ら課題を見つけ解決の見通しをもって学習に取り組み、学んだ成果を自覚して生活に生かせることが大切である。

書写学習は、手本どおりに模倣した作品づくりでも反復練習を繰り返す学習でもない。まずは、一人ひとりが文字に向き合い、自分の課題を見つけたり、どこに気をつけどのように解決していくかを考えながら練習方法を選択したりするなど、学習課題や学習方法を主体的に構築する力が必要である。

さらに、学習の過程や成果を振り返り、自らの伸びや課題を確かめるとともに、互いのよさや伸びを伝え合う中で学びを深め、成長を共有・共感できることも大切である。

こうした書写学習の積み重ねの中で、学んだ成果を「～に気を付けて書けば～のように書ける」等の形で自覚化し、生活に生かすことができれば、書写学習を通じた「生きる力」の育成にもつながると考えた。

4 研究仮説

研究主題に迫るために、次の研究仮説を立てた。

- (1) 児童一人ひとりが、試し書きの字をもとに課題をもち、課題解決のために自ら練習方法を選んで、意欲的に練習に取り組める工夫をすれば、「書く楽しさを味わう」ことができるだろう。
- (2) 試し書きとまとめ書きを比較し、友達や自分の伸びを見つけ、それを伝え合う場を設定すれば「自己の伸びを実感できる」だろう。

5 研究の内容

- (1) 「書く楽しさ」を味わうために

① 学習の見通しをもたせる工夫

学習の流れを黒板に提示し、主体的に学習に取り組むことができるようにする。

「**試 し 書 き**」・・・ワークシートに試し書きをし、参考手本と比べて上手に書けた部分や直したい部分についてシールを貼ったり、鉛筆で書き込んだりする。
「**めあてをもつ**」・・・本時のめあてや、文字を書くうえでの基準を知る。
「**練習**」・・・自分の課題に合った練習方法で練習する。
「**まとめ書き**」・・・隣の友達の試し書きを見ながら、まとめ書きをする様子（**ほめほめタイム**）をお互いに見合い、見つけた友達の伸びやがんばりを伝え合う。
「**ふ り 返 り**」・・・学習をふり返り、今後の学習や生活に生かす。

② めあての焦点化

本時の学習でつかませたい内容を精選し、焦点化してめあてにすることで、児童がめあてを意識しやすく、基準もつかみやすくなる。

めあてについての話し合いの時間を短くすることで、練習時間をしっかりと確保することもねらった。

例：題材 「人」

- 第1時 穂先の向きに気をつけて、左ばらいをていねいに書こう
- 第2時 穂先の向きに気をつけて、右ばらいをていねいに書こう
- 第3時 接筆に気をつけて、ていねいに書こう



穂先くん



③ ワークシートの活用

ワークシートは、毎時間同じ形式のものを用意し、学習活動の定着を図るようにした。試し書きのワークシートには、参考手本と比べてうまく書けた部分や直したい部分にシールを貼ったり、思いを書き込んだりすることで、自分の課題を明確にもつことができるようにした。

また、書いている様子を見合うまとめ書きの際にも、試し書きのワークシートを交換し、試し書きと比べながら見ることで、友達の伸びやがんばりをより見つけやすくなると考えた。



【 試し書き 】

ピンクシール・・・うまく書けたところ
青シール・・・直したいところ



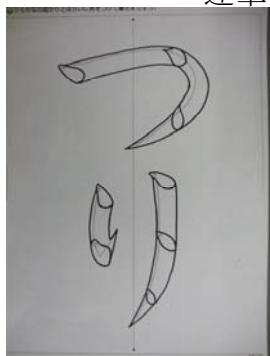
【 まとめ書き 】

④ 多様な練習用紙や場の設定

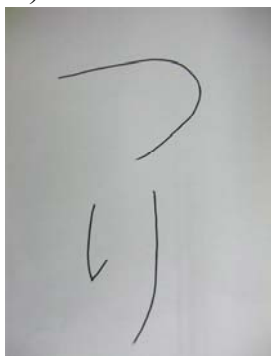
児童が意欲的に練習に取り組めるように、多様な練習用紙を用意したり、練習の場を設定したりした。毛筆の入門期である3年生の段階で、様々な練習方法を経験することにより、学年に応じて自分の目的に応じた練習方法を選択することができるようになると考えた。

練習用紙・・・籠文字・骨文字・始筆を示した用紙・穂先の向きが書かれた用紙
中心線と始筆が書かれた用紙

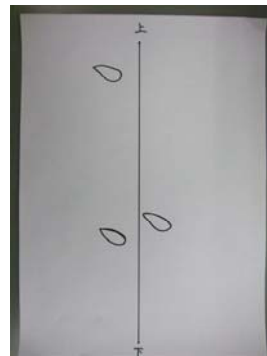
練習の場・・・水書コーナー・二色筆コーナー・点画ピースコーナー
運筆動画コーナー



かご文字



骨文字



中心線と始筆が書かれた用紙



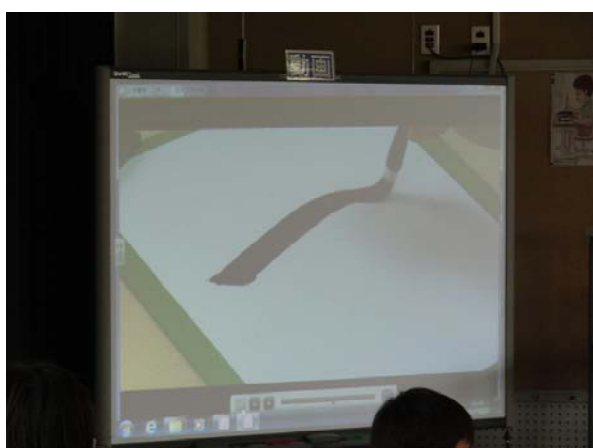
多様な練習用紙コーナー



水書コーナー



二色筆コーナー



運筆動画



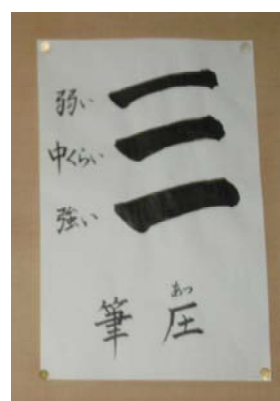
点画ピースコーナー

⑤ 姿勢図と書写の基本技術の掲示

教室前面に、姿勢図と合い言葉「ぴた」「ぴん」「ぐう」の掲示をし、毎時間確認することにより、書くときの姿勢の意識づけと定着を図る。



姿 勢 図



点画の種類や名称の掲示

(2)「自己の伸び」を実感することができるために

① 「ほめほめタイム」の設定

まとめ書きの際に友達の水いている様子を見合い、よかったところを伝え合うことで、自分の伸びが実感できたり、お互いの伸びを認め合えたりする「ほめほめタイム」を設定した。



試し書きと比較しながら
まとめ書きの様子を見る。



友達のよかったところを伝える。

- ・ 友達に見てもらいながら書くことで、よい緊張感が生まれ、集中して書くことができる。
- ・ 書き上がった作品のよさだけでなく、書いている過程でしか見つけることのできないよさ（姿勢・腕の動き・スピード・筆使いなど）にも気づくことができ、教え合うことができる。
- ・ 試し書きのワークシートと見比べながら書いている様子を見ることで、友達の直したいところに的をしぼって見ることができ、本時での友達の伸びに気づきやすい。
- ・ よさに着目して見合うことで、友達のよさを自分の作品に取り入れていこうとする、「学び合い」が生まれる。

② 試し書きとまとめ書きを並べて掲示する

試し書きとまとめ書きを並べて掲示することで、他との比較ではなく、一人ひとりの伸びに着目して見ることができ、自分だけでなく友達の成長を共有・共感することができる。

